



梅室書信選
俳諧題英發句集
夏

5
4119
2



門入利5
號4119
卷4-12



純游題英發句集及一部

梅玉素信選

文衣

ふくもの及故よ
こるもろへして明
ねんをよか
文衣をに
ふくもの
まはるへ
まはるへ

淡島
陸洋
海崖
文帯
湖
峽
白尾

社

庭ありてきて急なつ社
ひしきよきつらき社
社ハまじりの人ハ
まじりて地よきさ
ころころのまじり
肉よめて山をたの
まのまじり社
はまもてまじり
まはるまじり

孤舟
社
此松
石人
社
石外
九集
石外
田

四月

り燈よれけし
州よよるるの

石
出

卯月

まじり人よまじり
りわりもまじり
大江戸も木の
志まけの山よ
ふりまじり
まじり

風
出
義
雪
起
石

卯月

まじり水もまじり

石

善の考のまじり

石外

まじり

九起

人よまじり

石

大夫数

明子

え、けのまよりついで明子
明子そきもむもすまうあるとわきか
明子そきもそとをちりて根は木
し、し、のこり、あ、き、根、木
あ、き、た、あ、半、も、き、く、て、明、子
し、し、よ、れ、き、も、休、り、す、む、く、も、己
根、を、し、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
し、し、よ、の、月、甲、た、ま、さ、く、を、間、ま、う
あ、き、し、し、あ、り、る、の、際、も、あ、き、て
き、く、し、し、あ、り、る、の、際、も、あ、き、て
し、し、よ、の、月、甲、た、ま、さ、く、を、間、ま、う
し、し、よ、の、月、甲、た、ま、さ、く、を、間、ま、う

穂五 蔭 汀 杜 柳 白 半 遊 布 白 菊 菊 実 菊

花

あ、き、た、あ、半、も、き、く、て、明、子
し、し、よ、れ、き、も、休、り、す、む、く、も、己
根、を、し、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ
し、し、よ、の、月、甲、た、ま、さ、く、を、間、ま、う
あ、き、し、し、あ、り、る、の、際、も、あ、き、て
き、く、し、し、あ、り、る、の、際、も、あ、き、て
し、し、よ、の、月、甲、た、ま、さ、く、を、間、ま、う
し、し、よ、の、月、甲、た、ま、さ、く、を、間、ま、う

菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊

まの

まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...

菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊

まの

まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...
まのたけあきくも...

菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊

松の葉もたゞさうめいもまよふまじか
ひびくゆく豊あふあふそぬく礼
孝子女
是礼

招きせよたけさけあましく息を休
舞志つんと申すもひびくそ息を舞
舞とこらて一花うそあふくちさか
栞山

川包のまはれはつらふくちさか
老練尼うそとも修度せう礼け
昌舟

こしは色よよまきえ名平息を舞
舞とこらてしうこま平ひびくそ息を
李喚

ひびくあすまたらてを話し平所息を
靴舟

あつく平息を舞のそましくまれせ
多清

不扇

舞ころんとてくる次の間の息を舞
左夕

張うてくる間まもあふくちさか
正英

くらくちさかあてつらふくちさか
孫清

後の間ハ息を舞かきておまけに
秀露

舞もくちのあも流さす息を舞
大弁

息を舞さす可川まへ出さす息を舞
杜夢

風こてまのまおるひびくちさか
巨丸

どとまぢへまといひまれこち礼
由岐雄

舞してまもしあつす初故礼
竹茂

まこいさな故屋出してあふ説も
石久

夕午

悔

疾さす子のゆひをさしつゝ 塘の月 松園
 うやうやしくやせし月の美さへ 西島
 くもるこゝろ月のさしつゝ 船の加平 忠風
 塘の香の苑もくくへたる 松蔭茶 ^{イ六} 中津
 池火をうそへてうやの糸舞を乳 洞若
 うやつるやうささくは代の月吹く 杜若
 之乳おきてひびく ^{イ六} や塘の中 柏葉
 乳をまきて子の子牛く 塘の月 巡年
 年つるもひびく ^{イ六} や新を妻 先雷
 風の吹て袂の ^{イ六} うき 蚊帳乳 岳二
 田よまき ^{イ六} 風や 蚊帳の塘の波 古灰
 風の香も ^{イ六} 香志 ^{イ六} くの蚊帳乳 均華

蚊帳

白よりよ何事も蚊帳も破きく
 何んのかくもく ^{イ六} 蚊帳乳 破り

汗

矣故よつうき ^{イ六} 汗や 岩傳ひ 桑園
 新 ^{イ六} き ^{イ六} 女 ^{イ六} せ ^{イ六} あ ^{イ六} う ^{イ六} ち ^{イ六} や ^{イ六} 風 ^{イ六} 名 ^{イ六} あり ^{イ六} 多者
 身 ^{イ六} を ^{イ六} ま ^{イ六} ぎ ^{イ六} り ^{イ六} ぬ ^{イ六} ぐ ^{イ六} ち ^{イ六} ち ^{イ六} や ^{イ六} 新 ^{イ六} の ^{イ六} 汗 ^{イ六} 多者
 汗のた ^{イ六} ま ^{イ六} 伝 ^{イ六} へ ^{イ六} て ^{イ六} ま ^{イ六} ぎ ^{イ六} り ^{イ六} 子 ^{イ六} 伝 ^{イ六} 乳 ^{イ六} 扶年
 加 ^{イ六} り ^{イ六} ち ^{イ六} や ^{イ六} ま ^{イ六} ぎ ^{イ六} り ^{イ六} 志 ^{イ六} の ^{イ六} 扱 ^{イ六} 不 ^{イ六} き ^{イ六} 汗 ^{イ六} 拭 ^{イ六} ひ ^{イ六} 旨丸

愈 ^{イ六} へ ^{イ六} つ ^{イ六} も ^{イ六} の ^{イ六} 身 ^{イ六} を ^{イ六} ま ^{イ六} ぎ ^{イ六} り ^{イ六} ぬ ^{イ六} ぐ ^{イ六} ち ^{イ六} ち ^{イ六} 汗 ^{イ六} 丁子
 身 ^{イ六} を ^{イ六} ま ^{イ六} ぎ ^{イ六} り ^{イ六} ぬ ^{イ六} ぐ ^{イ六} ち ^{イ六} ち ^{イ六} 汗 ^{イ六} 多者
 身 ^{イ六} を ^{イ六} ま ^{イ六} ぎ ^{イ六} り ^{イ六} ぬ ^{イ六} ぐ ^{イ六} ち ^{イ六} ち ^{イ六} 汗 ^{イ六} 多者
 身 ^{イ六} を ^{イ六} ま ^{イ六} ぎ ^{イ六} り ^{イ六} ぬ ^{イ六} ぐ ^{イ六} ち ^{イ六} ち ^{イ六} 汗 ^{イ六} 多者

のうまひハ志らぬふくほせしむに
あし先ハよこのそらうけり時
もましくも田ハまうけてほらうけり
牝の芽のましくもりくイねくま守
時をましくもりくつ接りの鬼
あしきましくもりくも結よしく
たよそこふるのひくま守り時
ましくもりの接を中よ結よま
くもりまきこつ吉や園地時
ねも守のひくま守もて時
月代守りくまきくふねの中
まう西ハひくまのひく守りま

又路
張ふ
右一
竹之
全
大崎
五
阪岳
竹屏
天胡
丹山
五月

そくも之氣もきんとしてまね又時
抑もものもり川も守りねま
あしハきてくひくもりのほくま
ほくまきくもりく守りもくま
白くまもりくまきくもりくま
月のまきくもりくまきんもりくま
ましくもりくもりくのこりてほくま
ちくまねくもりくもりくもりくま
やうくものくもりくもりくもりく
時をちくまもりくもりくもりく
ましくまきくもりくもりくもりく
ましくもりくもりくもりくもりく

控五
悠く
器持
竹新
河晚
秀六
原枝
又白
总星
以湖
沙雄
采只

軽々せきおひぬくこゑや時考
 招ききき時考つらぬく温名のふらひ
 比らの上きあめうこまうと和とさき
 かけこーやあーの中ゆくふらひ
 花ふさひひくさきあまよ和とさき
 若くさきく川考さうてほとさき守
 ぬよつれたこゑよさうさう不ろ帰
 招きあへ 氣こむさやー浦考さき
 ちるぬさよ和とさきさうてさう杜
 和とさき 今かさうけて和とさき
 今よさうおめさうなれて時考
 大さけさうらつさうほとさき

二 卅

和とさきさふ花の中山よて閑
 少くむきー子のさきあさや和とさき
 きけくぬよ和とさきハまつやー時考
 花ををぬあハさきさうとほとさき
 まらぬのやさう一月花や和とさき
 時考さてさうさきぬてぬれ
 きさあさてさきさういささ杜考
 和とさきささるも流ふて和とさき
 新島させて十日考
 さふあまのさき藤ひさしほとさき
 さきさうさうさうのさうさう不ろ
 作向さ招のさうさう和とさき

二 卅

甫岳 系竹 吻岩 川湖 梅丘 高家 可楚 以湖 五 七 五

岡右鳥

不さきまきまあまきれあまきれ
山ひこのうけとるこゑやたけな
ほらきききききききききききき
あまのひそとととととととととと

柳玉
梅
一
五
夕
田
月
月
之

老学

かこころいふはわてさのりそ
まきく岡とくまきいでもくもこころ
ゆきやけとちくくもあつた岡左鳥
まきやまきまおきまきまきこころ
あまのひそととととととととととと

花
岳
未
孤
石
松
琴
牛
柳

まき

通一

結

あそききやうくをえんりやん
またよやうくこの磯をききてゆく
門川へたまさうあるやうにわくも
結あうやうくるまよふハせくるおし

以 義 東 五 巳

結

まよふ結のこしてあたる結川
あそ火のちる中よりあつ結外
あつ結もあるやう結の火のと映る
うらなれふもあたるやうに
結あひのふくをくもれあ
結あひのふくをくもれあ
山間へ下るうらなれのそらま

杜 吹 末 竹 長 炭 江

結

結あひのふくをくもれあ
あひ人よきくこのあたるやうに
あよあき風のそゆるや結のあ
結あひのふくをくもれあ

茶 元 布 川 湖

波きをきくひまのやうに
あまねくこのあたるやうに
くもる磯の結川へけやきやうに
あまねくこのあたるやうに

風 松 梅 桃

結

あまねくこのあたるやうに
あまねくこのあたるやうに

淡 木 城

高垣

よしきりや 軒子さしして 流るる水
 高垣や 仕方の 抄をききあはるる
 うらや 月も入り ともさあはる
 もの抄を 平もろし 赤きとも 枝地
 まはる ともへし ともさあはる 枝かこら
 赤きんて 出まも ともさあはる 乳

吹 標
 孤 清
 折 吉
 赤 家
 雪 菊
 梅 色

枝地

抱牛こころよ 角をさあはる
 ぬつたや 赤き角ていさく
 危のともさあはる 平のわづら
 このともさあはる 赤き角ていさく
 ぬのとき 平よはのふら抱牛

兼 弁 人
 未 米
 種 白
 兼 弁 人
 兼 弁 人

記牛

ひら葉や ひとところよ かくつた
 角のともさあはる 平のわづら
 ふむともさあはる 赤き角ていさく
 木阿も 月よこころ 平のわづら
 うらや 赤のやうさあはる 枝地
 いさくともさあはる 赤き角ていさく

大
 孤 清
 赤 家
 兼 弁 人
 兼 弁 人

うせく 平 柳田の 赤き角ていさく
 ぬのひていさく 赤き角ていさく
 灯を けせしり 抄をききあはる
 抄をききあはる 赤き角ていさく
 川中の 赤き角ていさく

兼 弁 人
 兼 弁 人
 兼 弁 人
 兼 弁 人
 兼 弁 人

考

こゝろなきくひとの紀よつて苦く
 洪きいなりわくまひつてるれふつ
 川さきのかきしきくしきふくふ
 川管て石山をわする浦もつて
 雪坂をてらしてはゆるりたるが
 潮さつてつるしきふふははるる
 やくふりよそのつてはるるのさし
 たりて来る人中かかすすきり
 別つていふちつて中よのわく
 小きるまのさきしゆくちるほ
 道つてゆくしきふはくちる
 わくまのさききりふくはるる

文芸
 折交
 収支
 吉
 外
 三
 月
 字
 谷
 葉
 谷
 木

一柳

まいけくまのわくまのさき
 わくまのさききりふくはるる
 けくけく柳まはるるはるる
 ひくふくふくさく火くさくはるる
 さくさくさくけくせくゆくさく
 わくまのさききりふくはるる
 流るるさききりふくはるる
 知てあるさききりふくはるる
 十あさくさききりふくはるる
 己の折ハさききりふくはるる
 内外さききりふくはるる
 折く折のおちくちるはるる

明く尼
 新技
 心
 竹
 布
 山
 斜
 用
 花
 群
 明
 白
 玉
 鉄
 折
 出

一柳

大をうして田一牧とふわゆるま
岩つふも中くまきく飛わら
後柳よりゆるいやう中花の白

笑海
又路
梅色

子又

子又中この涙ましくゆきもさう
子又中さあしやこのまたま
子又のうこうまて中ひるの水
子又中舞ふくまきふひつこ
山ひる中皇もまきもたのま乳ま
地さうひくもたのむ木うけ系
道出ても志さうハもま入る城ま

赤郎
午涉
義行
九華
梅六
才七
徳く
ま取

山垣

地

る城

地

地よまて地のはるまきま
地ひつつ下て来よくくおくるせ
ゆるんのもまきくまき中地たま
さへたまきあいらゆるもたまき
まき中まきゆるふよふまきま
地ゆるつまきれてまきをまき
のまきまきまきつ人もふけま
まきおまきおまきあまきま
香波のくくく中まの地まま
のまきまきまきまきまきま

芙蓉
赤明
松子
樗山
川湖
艾団
太華
親岡
地義
善功

地

故

故の故やふねつてひきて夕
いそしき故やとふ故めい
人さまつらうも故めい
なまてんよまて義故め
とへたわも血よこも故
故の故のくつてんも故
故の故のくつてんも故
あふさうにむけいし
ふさうにむけいし
果を拵て故もよまゆ
夕けふもたつていへ

江波 白木 洗羽 桑笠 花経 明是 梅安 表指 菊沈 栗吉 碧毛

故

果さうのせうもて
夕焼の屋まよくら
ふいねもふ来てハ
人ひくくみくく
かき火のせもあ
故やまの牛ま
あきの故や
かやして外て
故まや
々や大のさ
ひと在はか
かやさの

照越 真隆 龍崎 三栗 龍岡 梅庵 石木 子栗 大木 外栗

三上山きーてたまひく致す
新枝
松梅除いておひくー致す
厚
心
川

甲の灯よむいてつたつ
花子うれ
吉
風

ついであつて花子平一
花子
旭
子

有一のちふたしやう
花子
大
斧

石よふのせしおひく
かのか
寸
長

あふふふふも
おひく
かのか
子
南

皆おひく
あつて
痛
てる
花
子
が

おひく
の
し
け
て
も
ー
ら
寸
か
の
こ
氣

はきまて
ま
い
あ
さ
き
ま
る
花
子
う
れ

花子

花子

花子うれ
ま
き
ま
る
花
子
う
れ

おひく
の
し
け
て
も
ー
ら
寸
か
の
こ
氣

あふふふふも
おひく
かのか
子
南

皆おひく
あつて
痛
てる
花
子
が

おひく
の
し
け
て
も
ー
ら
寸
か
の
こ
氣

はきまて
ま
い
あ
さ
き
ま
る
花
子
う
れ

あれ
花
子
平
一
花
子
う
れ

花子

あれ
花
子
平
一
花
子
う
れ

あれ
花
子
平
一
花
子
う
れ

あれ
花
子
平
一
花
子
う
れ

花子

なきもあつてあつて座を平交の月
 藤文彦よまらたき生して交の月
 とわる人よまものうま平交の月
 りまいらの山さかづいて交の月
 まうそのそまうもあつて交の月
 しいぬといひまうもあつて交の月
 山回らまもといひまうのほま
 とよひくまもくつめら平交の月
 いろまもまもまもまも交の月
 庵もまのつらまもまも交の月
 きのおまてかづい志てあつて交の月
 ひまもつてねえへまも平交の山

花 錦
 相 古
 布 不
 ト 山
 与 楽
 情 高
 寄 山
 洗 山
 の 庭
 湖 月
 羽 杞
 谷 産

交の月

交の山

平のまも平交へむきまもあつて
 平のまも平交藤文彦よまらたき
 うのまも平交明くまも平交まも
 うのまも平交あつてあつてあつて
 平のまも平交あつてあつてあつて
 うのまも平交あつてあつてあつて

孤 崎
 と 是
 糸 糸
 せ 産
 可 産
 寄 産
 末 友
 寄 友
 奏 友
 寄 友

交の月

交の山

平様

美しかりて種木よきふさくら丸
抱しるまで志しき三日月様の美
美様よよとこしそをこしひのきま
葉種くもあつて林くまらぬの雲

ト 後
岳 二
乞 町
砥 山

若

せしくくのう木柄まとる花と葉
能くも花ハまよふんぬ志くうま
山のこちをあらう志けりうま
能くもをこしうまを花にかま
志くうまをこしひひへくれ
まきうまをこしまきまきうま南
本まきまきうまをこしまきうま

務 史
秀 芳
操 石
振 志
紀 岱
如 久
雪 聖

清くものおのそくまき丸
小一及葉の志けり中代の一
まおのひく山海の志けり
子町田のまきりく新様か
うまきりよまきまきうま新様か

胡 丸
石 壺
竹 白
司 史
赤 行

花のき

くわまきりハハもまきり一花のき

菊 英

柿のき

接木しつあるハハもす柿の花

杜 馨

松のき

松のとのおらまきり柿のき

双 兔

柚のき

柚のきやいままきりを鏡の上

五 節

桐のき

桐のきれよまきりついで葉このも

枝 月

相のき

村たきのくく一まきり相のき

竹 鳩

櫻櫛の毛

相さく平一海造在妻のまゝる留
浦山
海をそとわくそ成してまうれ花
そ嵐
又さくしひと皮想おてまうのま
ま流

名穀右木
の葉葉

まろ穀右木のまつのおをまろ平一塚のま
石ま

高葉

まろくま高平一と成りしを海をま
徳く

交木主

まろ交木主まろ平一交木主
忠ま

まけいせまろくつれいま平一交木主
そ

能復原のまろくつれいま平一交木主
偉文

のむろくハ表もまろ平一交木主
栗之

よまろくままろまろ平一交木主
木ぬ

木下園

源山路平一木下園まろ平一木下園
木ぬ

まろのまろまろ平一木下園
此山

まろのまろまろ平一木下園
ま竹

まろのまろまろ平一木下園
依山

まろのまろまろ平一木下園
木ま

まろのまろまろ平一木下園
石ま

まろのまろまろ平一木下園
ま海

まろのまろまろ平一木下園
洗山

牡丹

牡丹のまろまろ平一牡丹
大ま

牡丹のまろまろ平一牡丹
柳場

牡丹のまろまろ平一牡丹
周那

月景
 可憐
 壺
 峯
 瀾
 石
 川
 穀
 山
 栗
 未
 明
 義
 流
 其
 友

由らうとつらうをたもつ牡丹を
 夕時平丸んのかげの極のうへ
 止るもていふもあまの牡丹
 活るのも一途よとてくわんし
 よきふくさむくもわんしの牡丹春
 流やうとくもやうわんしの入口
 今朝うんたむれのかゝるほかに
 るとらのくもくわてちる牡丹を
 支ゆかて流てもあまのわんし
 ゑやうのくもくわてちる牡丹を
 比るのちもゆきあまのわんし
 暮るもていふもあまのわんし

玉流
 寄愁
 寄燕
 寄山

地ふくはよつらうをたもつ牡丹を
 きき流てもあまのわんし
 花けけよあてて流てもあまのわんし
 しみ月よあまて流てもあまのわんし

玉流
 寄愁
 寄燕
 寄山
 寄松
 寄石
 寄川
 寄峯
 寄瀾
 寄壺
 寄可憐
 寄月景

花けけよあてて流てもあまのわんし
 しみ月よあまて流てもあまのわんし
 活るのも一途よとてくわんし
 よきふくさむくもわんしの牡丹春
 流やうとくもやうわんしの入口
 今朝うんたむれのかゝるほかに
 るとらのくもくわてちる牡丹を
 支ゆかて流てもあまのわんし
 ゑやうのくもくわてちる牡丹を
 比るのちもゆきあまのわんし
 暮るもていふもあまのわんし

有茶

七色ハ茶と云ふかき茶のや一色茶子
 風よちるるちるるもあててくるのちれ
 きててさくおくもあささくいの茶
 ひらびらうひらひらたもつやくの茶
 ちるるのあささくもつすすりあひらうへ
 砂浜のちるるもあささくいの茶
 ちらちらうあささくもさくやくの茶
 砂つゆうつあささくのちれへ入れ
 ちらちらるるもあささくいの茶
 柳 岩
 林 曹
 柳 鴨
 木 乙
 石 雄
 岸 瓦
 琴 毛
 ト 山
 布 山
 辰 丸

小年

茶子

船て花のちけてあささくのちれ
 人のよささくとしてあささくの茶
 ちるるのちるるもあささくの茶
 おささくもあささくのちれ
 こささくもあささくのちれ
 たひ人よあささくのちれ
 袖さくもあささくのちれ
 ちるるもあささくのちれ
 戸口おてもあささくの茶
 ちるるもあささくの茶
 ちるるもあささくの茶
 ちるるもあささくの茶
 ちるるもあささくの茶
 ちるるもあささくの茶
 ちるるもあささくの茶
 柳 塙

ふききのうけのまじりのくつをう
いまやうのまじりのまじり
いまやうのまじりのまじりに
いまやうのまじりのまじりに

初 葉
竹 節
草 江
白 阿

持子
石竹

持子やかたしうよまきのうまきのま
石竹やかたしうよまきのうまきのま

茶 山
梅 土

杜若

こくくくくくくくくくくくくくくく
まのよまてはの中まうくまうくま
活てくくくくくくくくくくくくくく
あまあまのまれくまうくくくくく

柳 菴
玄 鬼
松 阿
留 嘘

龍つきのまじりよまきのうまきのま
まのよまてはの中まうくまうくま
活てくくくくくくくくくくくくくく
あまあまのまれくまうくくくくく
まのよまてはの中まうくまうくま
出のまてはの中まうくまうくま
回のまてはの中まうくまうくま
まのよまてはの中まうくまうくま
まのよまてはの中まうくまうくま
まのよまてはの中まうくまうくま
まのよまてはの中まうくまうくま

住 長
赤 色
淡 白
友 耕
倚 水
可 水
呂 童
如 柳
木 尾
空 鶴
笑 園
名 川

茨の巻

かきつばたのつらみもあうりけり
引あきやいれあはれまじりたをた
ねくやまきいふてかまらそ
吹きやきうたをさげまうまはく
いれ茨のつらみもあうりけり
あはれまじりたをさげまうまはく
たき松のまじりたをさげまうまはく

志あや
魚竹
石尖
ま
悠
洗
林
昔

まがき

海より船のまき開や草のまき
ひきまき葉のまきやこけのまき
町のうけのつらみもあうりけり
うらまのふしりまきやまきのまき

省料
風外
志友
如美

まがき

うらまのふしりまきやまきのまき
井のまき葉のまき開や草のまき
文州やまき葉のまきやこけのまき
まき葉のまきやこけのまき

抱儀
飛遊
醜
文

文州

まがき

ものやまき葉のまき開や草のまき
まき葉のまきやこけのまき

羞山

まがき

まき葉のまき開や草のまき
むき葉のまき開や草のまき
むき葉のまき開や草のまき
まき葉のまき開や草のまき
むき葉のまき開や草のまき

石儀
可慈
未明
可
蓮仍

夏 桂

きくらのやー山まきやまもまの秋
釣もくー紋あるたあろるやーま埃り
芭女まあちやーのたまきしてむきれ秋
川上ハもやーむよあまらるるものゆらこ
ま秋やーま刈よーふてるもも川
むらうもやーうしたらうーまの秋
ニ葉のうきーまあやーまあまは
あうのむーんようときれハみさうらう

重 糸 一 入 菴 宇 江 波 日 せ 菴 川 涸 たり 即 意 江

草

たすのふよと葉のつーにやー叶のふ
ふけのふやーあてさあふ末のふ
たあのとこーちあられうーけの場
作れ子やーあうーハ帰てのふささ
作の子やーたああてさあふ末のふ

打 係 南 海 蕪 奇 偉 文 松 竹

秋 系

箱まつらと舞のひくきう神代めく
あたらもあつらふかきたああひるま
りわーのゆーああはのふわひ葉
されもふーさうれんきやーあまき
まえあさへうまねてあてわけ
かまのまへうほあれうああれ

九 起 梅 曲 友 蕪 豆 河 以 湖 晚 糸

仙 世 系

二 十 三

灌仏

昔は

文 文 虫

懐

未

美 競

中

標

灌仏平... 文虫のけ...

懐... 文虫のけ...

美... 競... 中... 標...

杜 著

陵 山

吳 雪

葉 系

末 山

連 布

甫 山

玉 後

布 拍

儂 十

控 玉

善 沈

一 笑

葉 照

有 呷

可 慧

南 溪

鬼 介

梅 彦

漁 龜

宋 笑

梅 結

善蒲湯

ちやうやくちまきしんまのむつしき
ゆふまふふ志しんまのむつしき
花いあもやう風花あしんまのむつしき
そくしんまのむつしき 徳いんまのむつしき
善蒲湯や一花をこもるる花もさう
うつしんまのむつしき ちんまのむつしき
おらつしんまのむつしき 善蒲湯や花もさう

泰丘 清風 未明 三巳 旭味 一系

善蒲妻

我があしんまのむつしき 善蒲妻
若あしんまのむつしき 善蒲うり
あしんまのむつしき 善蒲子
活しんまのむつしき 善蒲ふきあしんま

弘法 難周 山象 ちんま

善蒲

新の善蒲はしんまのむつしき
むねあしんまのむつしき 善蒲外
徳の徳もさうしてさむる善蒲外
ふきあしんまのむつしき 善蒲
そくしんまのむつしき 善蒲
引のこもる善蒲をこもる善蒲
石善やうんまの善蒲 善蒲

友楚 柳文 出角 法氏 丹紫 荷碧 善笑

石善

紫湯善や一花はまてふつしんま
紫湯善や一花はまてふつしんま
あしんまのむつしき 善蒲
あしんまのむつしき 善蒲

氣兮 命海 輝碧 石楚

紫湯

そらてち中らそらあらるる茄子は
待まうらうらうらうらうらうらうらうら
巾の星やひやあーそけて紅茄子
控へてのちう料るやうら茄子
とるよあそくわらあるまもそひく乳
とてのくおあうらふらよて

義の苗あれをくもそよきく
まあを、とんを苗あてきへう
扱てやう子苗あるやううの角
子苗あはけうちあう田つらう
そらあそくわらあるまもそひく乳
とてのくおあうらふらよて

二二二
三三三
四四四

色 産
古 鏡
梅 西
梅 先
梅 風
山
山
大 翠
寸 莖
夕 坊
坂 光

まのねをたうのらるや子苗あ
おあうらうらうらうらうらうら
まはあうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうら
そらあそくわらあるまもそひく乳
さの田をひんらうらうらうら
たひんらうらうらうらうら
あまらうらうらうらうらうら
あまらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうら
うへはあ田あまらうらうら
うらうらうらうらうらうら

布 珠
稚 和
所 茂
古 終
在 粒
挂 山
まつ女
ま 摺
月 招
信 印
形 山
魚 造

子乙女
田植頃

ねくひ田ハひろくちうちうちうへ仕
揮て、ひかりまてさむ田而くれ
あつるうまきせてももるや田うへ
子乙女やあつるももるや、畦つらひ
ひとろものいもよまきとこ平田うへ
いつのまゝはへてやうしうへへへ

月 倉 明
江 秀
倉 海
立
吉 地

吉地

あまき持平ひさうくのにおもところ
まうま平あうひもあんとあまうま
さきききく無くあうまう平く飲のま
あつるま平はさえしへてくくう坂
山う平一ねねまきえい吉地のまれ

此 雲
夫 岳
る 山
吉 原
吉 城

吉原のま

葉の吉
吉地

まつありのいまにこをきゆう言飲のま
まうけハ山よまあう平あまのまれ
くあふそと見上げてまきあくのま
まうまうとしてあたりとれ標

此 云
太 乙
茨 山
吉 山

ま竹

ま竹やと標をさしまのひもつく
ま竹やと標をさしまのひもつく

此 云
大 屋
大 屋

ま竹

あつるま平はさえしへてくくう坂
あつるま平はさえしへてくくう坂

此 云
月 倉
月 倉

吉地

あつるま平はさえしへてくくう坂
あつるま平はさえしへてくくう坂

此 云
吉 地
吉 地

うへたきもあつて ちとらて 竹の月
 ましきもあつて 竹のえとら
 竹掛たまつて 藤とら 白花
 たの載てしきうて 八あきとら
 半載一敵ふてあつて ころま
 ニころのころのころ かくも
 かけさくの竹をそとるま札
 ゆるふてあつてあつてあつて
 ころころあつてあつてあつて
 直もまて 竹のあつてあつて
 ころ月日そよくむくとあつて

五 大
 警 舟
 京 海
 梅 海
 乙 船
 藤 周
 茶 案
 大 美
 急 流
 都 山

水鏡

境よりあつてあつてあつて
 田よりあつてあつてあつて
 皇 島よりあつてあつて
 くれきれあつてあつてあつて
 うけうてあつてあつてあつて
 やまのよあつてあつてあつて
 船の竹のあつてあつてあつて
 ころころあつてあつてあつて
 かしらあつてあつてあつて
 松葉あつてあつてあつて
 うき木あつてあつてあつて

五 大
 警 舟
 京 海
 梅 海
 乙 船
 藤 周
 茶 案
 大 美
 急 流
 都 山

はる

いつてても親多のみなうきこし
 足ねをえてよるもゆいさすはる外
 りくもるもるの中へさうさうさうさ
 うへ田まきつひよゆかゆへはるま
 おやうのそくさくさくさくさくさ
 うき菜ありういさうさうさうさうさ

あも暑し庭もさわもさくさくさ
 泣き地一竹のさくさくさくさ
 志くもあよ志つくくくくくく
 あく操のくくくくくくくくく
 瓦山平一屋あつてくくくくく

坪

差松をいらくくくくくくく
 きてまきく耳よのくくくくく
 降くゆも志くくくくくくく
 足つくあく町のくくくくく
 さくあく平陸ん結してあくく
 あよ平せく木よ引付平せくのは
 砂山平ニスのはもきみ乃志
 せくれく平大さくくくくく
 ものくくくくくくくくく
 松のく汁のゆきも志つくくく
 せくれく平村ハ總出の海くく
 せくくくく平あくくくくく

あき明
 柿玉
 度母
 おん
 純一
 孫和
 未屋
 明く尾
 考く
 義
 如
 考
 考

梅の

せし〜乳志〜性本も〜きれ〜
み〜くせの〜や〜海〜の〜梅〜丸
〜〜〜ま〜き〜せ〜の〜梅〜丸

梅 枝
色 派
友 悠

六車

ふ〜く〜火車〜ま〜車〜ま〜り〜り〜
〜ハ〜ま〜〜〜〜ハ〜ハ〜ハ〜の〜ま〜ま〜
よ〜〜ハ〜の〜〜〜梅子〜梅〜丸

月 燈
梅 船
美 洋

神の

納〜ふ〜〜〜梅の〜ふ〜梅の〜丸
〜〜〜〜〜の〜〜〜ハ〜梅の〜丸
〜時〜の〜梅〜丸〜〜〜ハ〜梅の〜丸
い〜け〜の〜梅〜丸〜〜〜ハ〜梅の〜丸

必 山
荷 鳥
意 望
梅 外

梅の

入梅

た〜つ〜の〜梅〜丸の〜丸〜ハ〜梅の〜丸
梅〜丸の〜梅〜丸の〜梅〜丸
〜〜〜〜〜の〜梅〜丸
入梅〜丸の〜梅〜丸
梅〜丸の〜梅〜丸

双 唇
風 汗
其 意
宗 三
石 星

互〜れ〜〜〜梅の〜丸
〜〜〜〜〜の〜梅〜丸
〜〜〜〜〜の〜梅〜丸
〜〜〜〜〜の〜梅〜丸
〜〜〜〜〜の〜梅〜丸
〜〜〜〜〜の〜梅〜丸

石 外
意 灯
源 木
真 乙
意 明
梅 寺

五月

さあこれやーもろもろした事をしるのうし
 ともあふる秋田沼田や五月
 ふかしのさうくさひし中五月
 五月るやーいひひひあきー人の家
 五月るよおきまきてさるや役の波
 さあこれの果えとむさるや明之
 五月るやー糸のさうもさあさあ
 さあこれやーくれなさをさうさうさ
 かりさうさうさうさうさう五月
 五月るのをれ間や松さうさう
 渡むさうさうさうさう五月
 一の山さうさう五月下南
 半江
 五梅
 奇行
 布必
 右谷
 孤林
 雪徑
 慈路
 不儀
 东林
 并氣
 木乙

五月

五月るやー替も体もさるあの中
 さあこれやーあさこのかすく息の津
 さあこれよよこれやあきさの巻
 さあこれやーサ用あさくもあきの巻
 さあこれよよあきのさひつく五月
 らいひひひひひひ五月
 五月るやーあきそのおむき影の松
 さあこれやーあもさうさうの時さう
 船て火をたさうさうさう五月
 樟の葉のあきのたさう五月
 聖崎
 日丈
 其森
 水石
 奇鳥
 山月
 野湖
 射山
 浮山
 梅堂

一さうさうさうのさうさう五月

う大

川村

せしとくく来て川村入ましとくく

五橋

善の... 年の往來も久しう

山外

たふて池... 香のよ福のあそこあ

洗海

おれも善も伽くまうくく善此の

栞方

川た... てもて生る善えり

文江

ふらふ... てもとの去つくは善此くへ

布衣

ふらふ... てもおれもくく善のの

烏井

ひら... てもくくくくくくくくくく

仙火

ひら... てもくくくくくくくくくく

一寺

ひら... てもくくくくくくくくくく

立宇

ひら... てもくくくくくくくくくく

禪和

ままき... てもくくくくくくくくくく

草堂

墨

ひら... てもくくくくくくくくくく

松雲

善

ひら... てもくくくくくくくくくく

墨洞

夕

ひら... てもくくくくくくくくくく

真松

夕

ひら... てもくくくくくくくくくく

有帝

ひら... てもくくくくくくくくくく

御月

蘭

蘭の... てもくくくくくくくくくく

文化

蘭

蘭の... てもくくくくくくくくくく

玉芝

作

作... てもくくくくくくくくくく

投海

作

作... てもくくくくくくくくくく

川湖

凡

むくりくいと瓜のうつくやとて人も
菊のまゆこもすうこのつる
ゆくまゆのまゆくてもさう瓜のま
うこのまゆや短て月さそ枝もと
まゆと平あ不怒うさま瓜もとけ
ちーり井やつまを結問のひやー瓜
網度まぬのまゆまうとて短うま
こくまゆとねもまゆー平ひやー瓜
ひもらあのをまゆーくえゆるま回系
そまゆくもまゆまゆまゆまゆと回
短ーり平ま回まぬのぬまゆまゆ
短ーまゆままゆと回まゆまゆまゆ

楓下
米女
月産
枝香
桃枝
赤竹
雪染
麦洋
秋孝
華叙
石外
孝州

五回

風まゆらハワウこくえゆるま回
風のまゆらぬぬらこまゆま回系
たて場まゆのまゆのまゆま回
浮浪のまゆま回まのまゆま回

向
年尺
京節
秋明

四叶

なまゆき
秋を新
秋を
秋を
秋を
秋を
秋を
秋を

楚香
冬風
周阿
竹柳
柳酒
玄子

仲修
ん左

折子

一花能
一花能
一花能

沈奥院
岸

たぐしうらな切目のうき

とくしうらなうきゆき

おのりんむしうらなうき

りしうらなうき

なまふつとそくしうらな

あさ畑のぬみきうけてひ

法なきのきえりうき

人中へ火をうきは

苗のきりあは明あつる

ひんうらな岸のうき

庭 海

岸 土

玉 指

杜 籠

徐 及

あまの

折 光

慈 路

る 山

後 差

おと

は後

茅の菰

うしひやふもとの村乃な

うしをまはるうき

田ふいのうき

うらなもきれふらや

竹ふきへうき

かきうけてうき

枕灯しよらへてこ

あつきりきくこな

松しよまきのあみ

笠おてなみ

お 糸

ま 山

月 坡

杜 陵

紫 洞

岸 土

志 層

吃 能

以 湖

河 境

施米

海をこし志つてのくるまの福を
やまぬまをまてくるまのこま
こむまのハありまのこまのこま
捨給しまのこまの施米うま

棠里
ち足
存叟
僊十

交結

交りく平に乳をくめあらひま
くまの戸中交へうつる乳ふま
捨割てもひくくくくくくく
そらまくとおまの替きくくまの乳
はくくくくまのほられてみるま
補ちきくはまのまのまのまのま

東耕
名自
以似
以似
以似
吃義



